

## 「第12回キッズデザイン賞」において 少子化対策担当大臣賞、キッズデザイン協議会会長賞を受賞

9月25日、キッズデザイン協議会（内閣府認証 NPO法人、本部：東京都港区）主催の「第12回キッズデザイン賞」<sup>\*1</sup>において、全受賞作品252点の中から上位賞が発表されました。積水ハウス株式会社は、街をつなぐ保育園「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」<sup>\*2</sup>で優秀賞・少子化対策担当大臣賞、ライフスタイル提案「トモイエ 共働きファミリーが暮らす家」で奨励賞・キッズデザイン協議会会長賞を受賞いたしました。

なお今回は、2部門で計4点のキッズデザイン賞を受賞しており、当賞の創設以来、12年連続の受賞となります。

### <子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

優秀賞・少子化対策担当大臣賞受賞

街をつなぐ保育園「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」  
（東京都江東区）

奨励賞・キッズデザイン協議会会長賞

ライフスタイル提案「トモイエ 共働きファミリーが暮らす家」



### <子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

街をつなぐ保育園「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」（東京都江東区）

#### 審査評

子育て世帯の増加著しい都市部では、保育園に適した敷地は限られ、近隣住民との関係性なども含め、待機児童対策を阻む様々な障壁がある。本作品は高速道路高架沿いの全長180メートルを超える緑地帯を活用し、「街に開く」「自然を感じる」のテーマを、空間環境としても、運用としても見事に実現させている。園児、親、先生のみならず地域住民との交流プログラムは「地域で見守り、子育てする」ための都市型保育園の優れたモデルケースとして非常に参考になる。

都市部には多くの待機児童がいますが、保育園に適した敷地は限られています。江東区に開園した「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」は、高速道路の高架下の空間を有効活用し、建物配置や外構計画を工夫することで、街との多様な関係が生まれています。将来を担う子どものすこやかな「育ちの場」としてだけでなく、地域全体で子どもの成長を見守り、子育て支援を行えるような「街をつなぐ保育園」を創り出しました。子どもを通じて、地域に住む人々が社会参加し、多世代の人々と関わることは、街と子どもにとって貴重な財産になります。積水ハウスは、今後も「地域資源」としての保育園づくりに積極的に貢献いたします。

※1 キッズデザイン賞は、子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・空間・サービス・活動・研究を対象とする顕彰制度です。

（キッズデザイン賞 HP: <https://kidsdesignaward.jp/>）

※2 株式会社ネス・コーポレーションとの共同応募



好きな時間を過ごせる室内

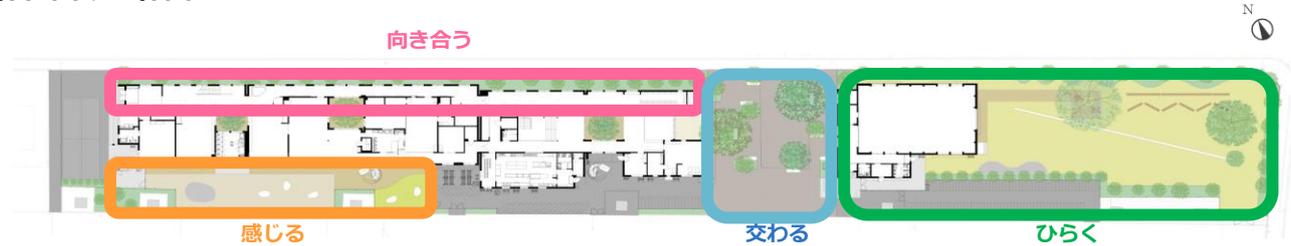


子どもたちが創意工夫をして遊ぶための起伏のある芝生の園庭

## ■ 街をつなぐ保育園 – 保育園と街のつなぎ方 –

高架下の長い敷地には、保育園と街のつなぎ方に工夫が必要となってきます。そこで、それぞれの場所の空間のあり方に着目し、デザインをしました。2017年4月の開園から約1年が経過し、子ども達の元気な声が聞こえる明るい保育園へと生まれ変わりました。これからも地域に愛される場所として、子ども達と共に歩んでいきます。

### 保育園の全体図



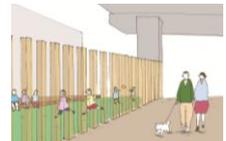
#### 向き合う

街に面した建物北側は、フェンスや生け垣を設けず、園児と街の人々の様子が見える関係をつくります。緑地を挟むことや子ども達の活動の場に室内とすることでセキュリティや騒音に配慮し、保育園と街の相互理解を深めます。



#### 感じる

高架に面した保育園の南側には、乳児の園庭を配し、高架下通路と園庭の間には、適切な距離感を保ちながらも、お互いの気配を感じることができるようフェンスを配置しています。園児の活動を感じることで高架下にあたたかな賑わいを創出します。



#### 交わる

敷地を横断する通路には、保育園のエントランスを設け、街と保育園が交わる公園として整備しています。公園に面して遊戯室を設けて、先生・園児・両親・街の人々がコミュニケーションを図ることができます。



#### ひらく

通路を挟んだもう一つの敷地は、メインの園庭として活用します。イベントやお祭りなどを開催し、街の人々と園児が関わる街として、ひらかれた場所となっています。



### <子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

#### ライフスタイル提案「トモイエ 共働きファミリーが暮らす家」

##### 審査評

共働き世帯に向けた住宅の家事動線提案の多くは、女性視点のみが強調されがちであるが、同社調査では「家事は家族みんなで協力する方が良い」と考える人が、共働き世帯で95%、専業主婦世帯でも86%とユーザーの意識変化は顕著である。共働き世帯の時間的、空間的な住宅の細かな課題に着目し、住み手の共感を得る工夫が随所に見られ、暮らし方の提案につながっている。

「トモイエ」は、仕事と家庭を両立しながら、さらに暮らしも充実させたい共働き家族の住宅ニーズに応えたライフスタイル提案として2009年から展開しています。近年働き方が多様化し、共働き世帯数も増加の一途をたどっています。仕事、家事、育児に忙しい今の共働き家族には「だんらん」の時間が大切です。この「だんらん」を手に入れるため、「家族みんなが楽しく効率的に家事ができる提案」＝「みんな家事」というコンセプトのもと「トモイエ」をリニューアルしました。

この提案によって、現状、女性に偏る傾向のある育児・家事負担を軽減し、子どもを産み育てやすい環境を創出します。新たな「トモイエ」には、共働きファミリーが快適に暮らすための「幸せ家事デザイン」が詰まっています。



「トモイエ」カタログ

## ■ 「みんな家事」を実現する「トモイエの4法則」

新たな「トモイエ」では、「みんな家事」をコンセプトに、三大家事である「お洗濯」「お料理」「お掃除」と仕事モードと家モードの切り替えを上手にする「身支度」について、「トモイエの4法則」をつくり、家族みんなで楽しく効率的にきちんと家事をこなせる間取りや空間、収納、設備の開発を行いました。家族が参加しやすい工夫を強化しています。



トってもスムーズ「お洗濯」    もっとみんなで、もっと「お料理」    いつでもだれでも「お掃除」上手    エっとおどろく素早い「身支度」

## ■ 「みんなのリビング」を中心に、ON/OFFを切り替えて家事ができる「3大家事&身支度空間」提案



### <参考情報>

積水ハウスは「キッズデザイン賞」を12年連続受賞  
「第12回キッズデザイン賞」では、2部門4点を受賞

今回の上位賞発表と、既に、8月24日にキッズデザイン協議会から「第12回キッズデザイン賞」受賞作品が発表されています。

積水ハウスの受賞は以下の通りです。

#### <子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

- ① ライフスタイル提案「トモイエ 共働きファミリーが暮らす家」
- ② 街をつなぐ保育園「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」(東京都江東区)
- ③ マルチエアコン小空間マルチカセット「ココタス(スマートパトロール運転プラス)」 ※3

#### <子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門>

- ④ 子どもでも開けやすい窓用引手「イーズ引手」 ※4

※3 ダイキン工業株式会社との共同応募

※4 不二サッシ株式会社との共同応募